

第23回 共同実施事業管理委員会 東京都作業部会
議事要旨

日時：平成31年1月29日（火）13:15～14:15

会場：東京都庁第一本庁舎 33階南側B会議室

1 開会

2 議事

(1) 自家用給油所に係る屋外燃料貯蔵タンクの購入について

<説明・確認>

- ・事業の概要について組織委員会から説明。個別案件確認表について、組織委員会及び東京都からそれぞれ説明。
- ・「東京都が負担する経費の基本的な考え方」の4点に対応していることを確認。

<質疑、意見など>

- ・若洲デポの場合、周辺のサービスステーションを補完的に利用する予定とのことだが、屋外貯蔵タンクでは不足するというのか。
⇒試算したところ、ノズルの数が12、13必要であり、若洲デポのみではすべてを賄うことはできない。敷地の不足もあるので、周辺のサービスステーションを併用する。
- ・若洲デポと周辺のサービスステーションの使用比率はどのくらいか。
⇒給油量を試算したところ最大で半々くらいになるが、バスの運行時間の調整等で、若洲デポの貯蔵タンクを最大限活用し、周辺のサービスステーションは補完的な活用としたい。
- ・危険物を取扱うことになるが、免許を取得している人を配置することになるのか。
⇒運営委託をし、免許を所持する人が常駐する。
- ・最後に軽油が余った場合はどうするのか。
⇒廃棄とならないよう工夫して運用する。
- ・今回の契約に撤去は含まれないのか。デポの撤去を一括で行う予定はないのか。
⇒撤去についてはまだ決まっていない。現在、タンクを廃棄せず、二次利用できるようにタンクの受け入れ先を探しているところである。譲渡や売却など、どのような方法が可能か、今後、関係者と相談し検討したい。
- ・築地デポよりも若洲デポのタンクの容量が大きい理由は何か。
⇒走行距離の違いである。築地デポは、選手村と競技会場間の移動の

ためバス 1 台あたりの平均走行距離は 90km になる。一方、若洲デポは、メディアセンターとホテルと競技会場間の移動のため 1 台あたりの平均走行距離は 330km になる。

- ・資料 1 の 1 頁に特別契約理由の記載があるが、計量機に接続できる屋外貯蔵タンクをつくることのできるのは、コンボルト社しかないということか。

⇒そのとおり。通常、ガソリンスタンドの貯蔵タンクは地下タンクだが、本件については、消防の許可が下りるのが地上タンクのみであり、その軽油と自家用の地上タンクは、コンボルト社のみ作ることができる。消防とも協議したが、消防もコンボルト社以外に使用許可が出せるタンクを認知していないと言っている。

(2) Games 用 PDC および晴海トリトンオフィスの大会用ネットワーク運用保守業務について

<説明・確認>

- ・事業の概要について組織委員会から説明。個別案件確認表について、組織委員会及び東京都からそれぞれ説明。
- ・「東京都が負担する経費の基本的な考え方」の 4 点に対応していることを確認。

<質疑、意見など>

- ・資料 4 の 3 頁に大会用データネットワークの図があるが、今後、他の会場でも運用保守業務委託は発生するのか。
⇒発生する。今後他の競技会場の分も追加していく。
- ・全体を一括して契約した方が安いのではないか。
⇒要件が固まった時点で、できる限りまとめて契約したい。今回のように PDC (プライマリーデータセンタ) や競技会場のテストイベントなど特別の体制を作って実施するものは、1 つのまとまりとして契約する。
- ・距離が離れている競技会場もあるが、運用保守対応は NTT がリモートで対応するのか。
⇒競技会場の状況に応じて、会場内常駐と会場外拠点待機を組み合わせ、効率的に対応する。
- ・何かあった場合には、電話で呼び出し、駆けつけてもらうということか。
⇒監視は 24 時間実施し、故障や交換の際は駆けつけてもらう。
- ・経費分担の考え方を教えてほしい。
⇒テクノロジーのインフラに係る経費分担の考え方は仮設等と同じであり、都及び都外自治体所有施設は東京都が負担し、国・民間所有

施設は組織委員会が負担する。

今回の PDC については、PDC を中心にすべての会場にネットワークが繋がるため、東京都と組織委員会が分担するという考えである。具体的には、オンサイト保守や監視など細かく費目を分け、費目ごとに、組織委員会と都のどちらで負担する会場で使用するものなのかや、それぞれで使用するネットワーク機器の数量などをもとに按分している。

3 意見交換
特になし

4 閉会